

# 輝け 田底っ子

第 18 号

文責：校長 益永 一幸

令和4年度 田底小 チャレンジ目標

- ①最後までがんばろう ②上手に伝え合おう ③自他を大切にしよう



## 1学期「人権集会」～障がい者差別をなくそう～



6月22日（水）の午前中に校内人権集会を開催しました。子どもたちが意見や思いを発表する場・保護者や地域の大人の人たちと意見を交換する場を提供する目的の「熊本市子どもフォーラム」も共催して行いました。保護者の方にはZoomで参加、地域の方、市教育委員会からも学校に来て参加していただきました。今回、子ども・保護者・地域の方の意見交流の時間が十分と入れなく申し訳ありませんでした。

内容は講演会を通して「障がい者差別」のことについて考え、感想交流をすることです。講師はパラ水泳競技の富田宇宙さんのタッパーである「尾原遼平さん」です。2人共熊本市出身なので、とても身近に感じることができました。講話では、「障がい者って何」「普通って何」という質問を投げかけられました。障がい者を作っているのはその周りの人であり、思い込みであり、それをなくすためにはコミュニケーションが大切であるという話をされました。また、自分が思っている普通という思い込みの範囲を広げ、人との違いを受け入れ（多様性）、その違いをむしろ楽しんでほしいとも言われました。

講話の後、子どもたちから質問や感想がたくさん出ました。その中に、「障がい者の友だちが来ても、楽しいと言ってもらえる学校にしたいです。」という意見も出て感心しました。

### 児童の感想

私は尾原さんの話を聞いて、体が不自由だったり、障がいをもっていたりする人は、障がいをもっていない人に「障がい」と決めつけられているということが分かりました。相手の気持ちをよく考えることが大事だなと思いました。尾原さんの話を聞くことができて良かったです。

6年 山名 優莉咲 さん



# 東京フィルハーモニー交響楽団公演

～文化芸術による子供育成推進事業～



6月23日(金)、東京フィルハーモニー交響楽団から30人が来校し、本校で演奏していただきました。東京フィルは日本で最高の交響楽団と言われています。「舞踏会の美女」「ハンガリー舞曲第5番」「小さな世界」などの生の演奏を聴いて、音を肌で感じる感覚を味わいました。

また、本校の体育館は老朽化により7月23日から全面改修が予定されており、体育館が最後に私たちに感動を与えてくれた感謝の思いもあります。

小林まみやさん、田中 あいり さん、藤田 ゆづきさん、校長の4人が、指揮者体験もさせていただきました。「浜辺の歌」を合唱したり、「交響曲第5番：運命」をボディパーカッションで楽しんだり、盛りだくさんの内容で大満足のうちに終わりました。

そして何と、田底小校歌のオーケストラバージョン伴奏CD(8月ぐらいに届きます)もプレゼントでいただきました。今後の田底小での大事な式では、このCDを使って校歌斉唱を歌いたと思います。



## 児童の感想

いろいろな楽器で1曲をみんなで演奏していたのがすごいと思いました。一つ一つの楽器の紹介をしてくださってありがとうございました。コントラバスは180cmとか、ホルンは4mくらいあることを聞いてびっくりしました。お忙しい中、田底小に来てくださってありがとうございました。最後に田底小の校歌を歌ったらいつもとちがう感じで楽しかったです。

5年 斉藤 さや さん

## 児童の感想

東京フィルハーモニー交響楽団の方々の演奏をきいて、いろいろな楽器の音が重なり合っていて、きれいな音だなと思いました。見ただけじゃわからないことを教えてもらえてうれしかったです。体を動かしたときは心をこめて動かすことができました。浜辺の歌は意味を理解して歌うことができました。きょうな体験をすることができて勉強になりました。

5年 椎葉 ゆらり さん

## 児童の感想

演奏で一番すごかったのは、はくりょくの演奏でした。ぼくもそんなふうにならなりたいです。東京に行けたときは、お母さんにたのんで見に行きたいです。これからも演奏をつづけてください。

5年 高森 えいじ さん